

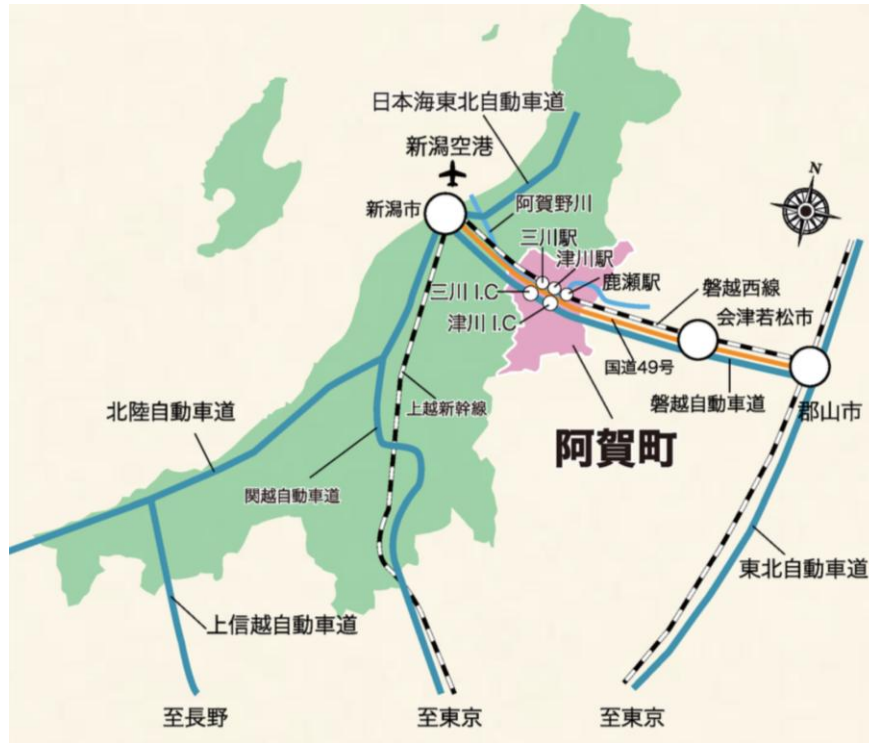
第4分科会 特別支援学級（知的障害、肢体不自由等）の教育活動

一人一人が生き生きと輝く特別支援学級（知的障害、肢体不自由等）の教育活動

知的障害学級における 自信を育む授業づくり

阿賀町立 津川小学校 教諭 渡部 栄里子

阿賀町立津川小学校 児童数 92人



特別支援学級 12人 **まなび学級**

2年生 2人 4年生 2人
5年生 1人

知的障害学級 5人

自閉症・情緒障害学級 7人

担任の願い

子供たちが自信をもって活動できるように

授業づくりの工夫

1. 体験活動を主活動とする授業時間の設定
2. 全職員による特別支援教育の推進
3. 失敗を次につなげる授業の構築



1～3を連携させながら、PDCAサイクルを活用して、子供たちの実態に合わせた支援を行う。

Ⅰ. 体験活動を主活動とする 授業時間の設定

	月	火	水	木	金
朝の会	まなびの時間				
1					
2					

朝の会
1校時目

8:25~9:25

特別支援学級の活動時間が帯となるように時間表を編成

朝の準備

子どもとの対話
体調はどうか？
きめ細かく把握

朝の会

役割のある朝の会
交流学級での自信
につなげる

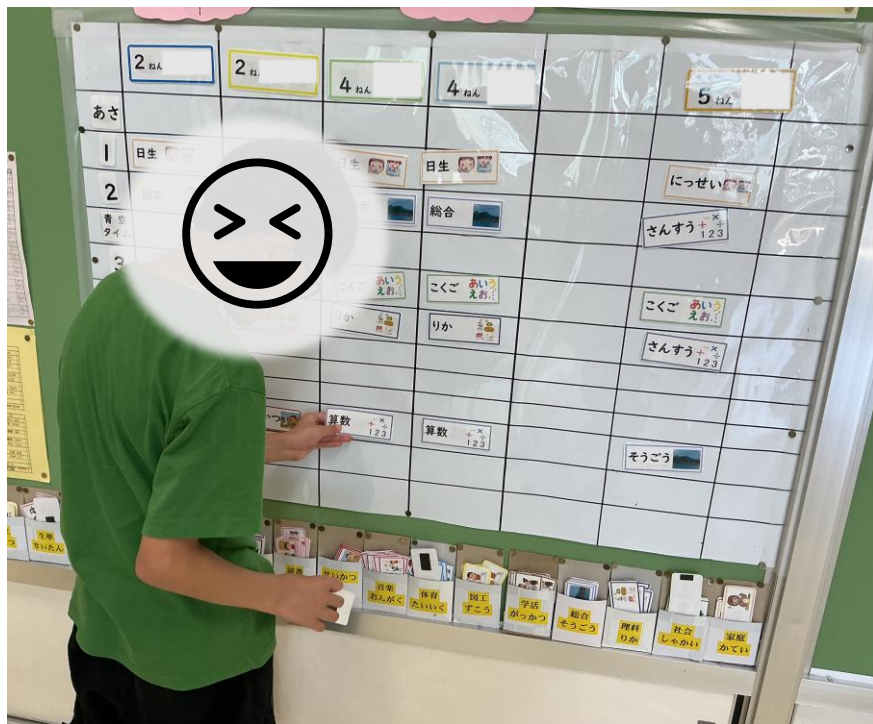
日常生活の指導 生活単元学習

学習の基盤（授業・行事・係活動など）
「始めはうまくいかないのが当たり前」とい
う視点に立ち繰り返し挑戦する場を設定

朝の準備

8 : 25 ~

交流学級での朝の会が
終わったらまなび学級へ



ボードに教科のマグネットを貼る

①連絡ファイルを提出

②ボードで予定を確認



ここが
大事

子どもとの会話を大切に!!

体調や様子をきめ細かく把握する。
何気ない会話から、友達関係、勉強、家族、
楽しかったことや困っていることなどを聞
ける時間。

朝の会

役割のある朝の会

朝の会当番

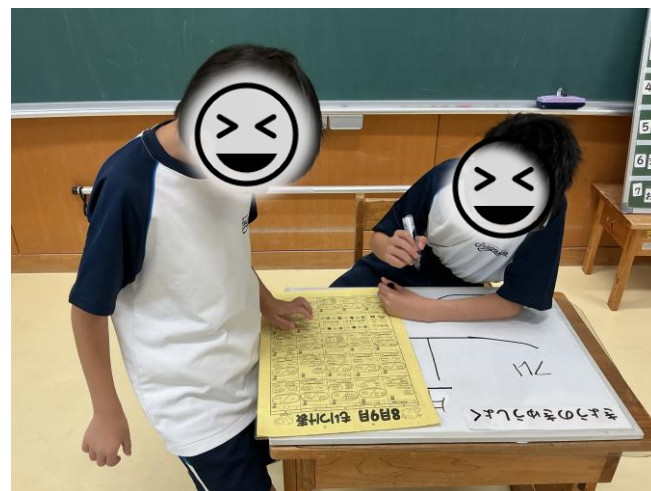
- ・日付と曜日
- ・朝の会の司会



当番表
毎日回して
使います

給食係当番

- ・メニューを書く
- ・メニューの発表



自信を育むための手立て!!

特別支援学級内での役割を果たす経験が、交流学級への自信につながる。話し方、声の大きさ、聞く姿勢や態度にも気を付けるように配慮する。

日常生活の指導

生活単元学習



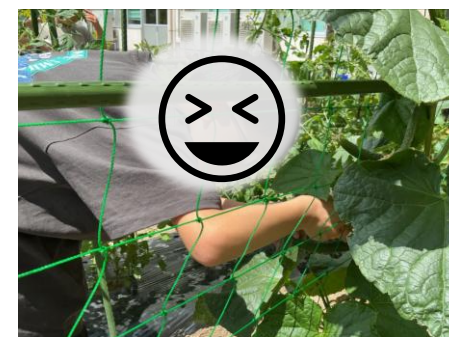
給食の配膳の練習



ラジオ体操の練習



運動会の練習



野菜の世話



給食の配膳



運動会本番



運動会本番



体力テストの練習



始めはうまくいかないのが当たり前!!

生活の基盤（生活・授業・行事・係活動などに生かせる力を育む）

子供たちに「できた」という喜びを実感させたい。交流学級での活動に自信をもって参加してほしい。「できなくてもいいよ。できるまで頑張ろうね。」という担任の思いから繰り返し挑戦する場を設定した。

2. 全職員による特別支援 教育の推進

保護者との連携

～保護者の願いに寄り添う～

○特別支援学級と交流学級での学習の進め方について

○保護者への連絡・・・電話連絡と連絡帳

電話で連絡する（緊急なこと。保護者が心配だと思っていること。）

連絡帳を活用する

例）「大きなサツマイモを収穫しました。」
と書くだけではなく、写真を貼る。



児童が言葉で上手く伝えられなくても、うれしい気持ちが、表情から伝わる。

※連絡帳を確認して、もっと詳しく知りたい場合は電話連絡する。

全職員で連携

【チームとしての支援】



担任と介助員の情報交換
を毎月実施



英語専科の授業



放課後等デイサービスへ下校



【積極的な情報収集】

担任が子供の様子を直接見たり、交流学校の担任や介助員から聞いて情報収集をした。

（例）支援に活かした事例

体育：ハンドベースボール

Aさん（体育に行きたがらない様子）

介助員 ハンドベースボールのルールが分からないようだ。

担任 体育の様子を見に行く。

その後行った手順

- 1 交流学級担任との情報共有
 - 2 Aさん本人との対話
 - 3 次の日の朝「まなびの時間」に、「まなび1組」で練習する場を設定
 - 4 再び交流学級担任と情報共有し、Aさんのグループのメンバーにも声をかけ、一緒に相談
 - 5 次の体育の授業の様子を観察
- Aさん「楽しかった」

全職員で連携

【交流学級担任との調整】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	身体測定	身体測定	身体測定	身体測定	身体測定	身体測定
2	学活	学活	算数	算数	算数	算数
3	国語	算数	英語	音楽	保健	理科
4	図工	体育	総合	算数	国語	英語
5	読書	国語	理科	学活	算数	学活
6	社会	学活	学活	学活	図工	体育

各学年の教科、担任と介助員の配置を示したシフト表を職員に配付した。

シフト表作成

毎日、放課後に特別支援学級の担任で相談しシフトを決める。短い時間だが、打ち合わせの時間も兼ねているので大切な時間となっている。

【発表活動等のサポート】

行事や発表会では、練習段階から交流学級と連携し、参加方法や支援方法を検討した。



3. 失敗を次につなげる授業 の構築

実践授業

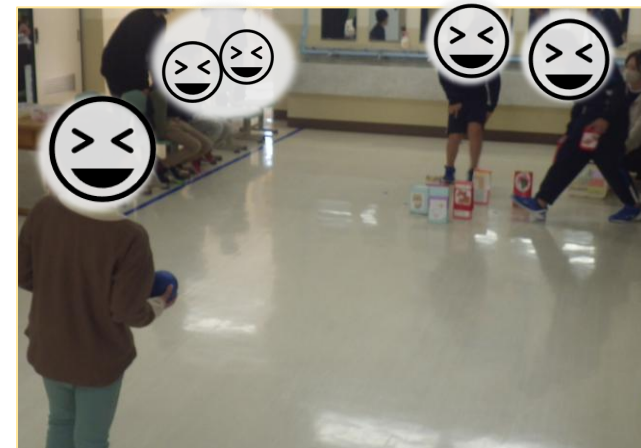
自立活動「みんなでゲームをしよう！」

ねらい

国語の学習をボウリングゲームに取り入れ、ゲームをしながら平仮名や漢字に親しみをもつ。

集中力が続くように活動を区切る

5分	10分	5分	10分	10分	5分
課題設定 活動の見通し	イラストの名前の練習 (国語の活動①)	ルール 役割の確認	ボウリング(活動①の イラストを貼ったピン)	倒したピンの名前を書く (国語の活動②)	振り返り



教科との関連

国語

プリント教材とイラストを活用

算数

倒したピンの数の計算



国語の活動①



国語の活動②



ボウリング

タブレット端末の活用

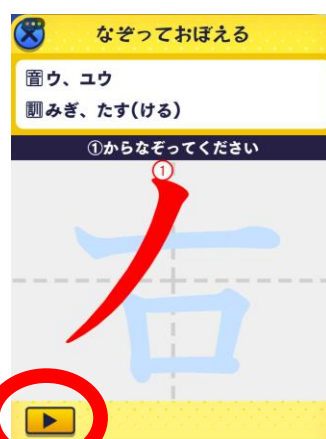
子供の実態・願い



拗音の読み書きが難しい
タブレットを使いたい
漢字の勉強をしたい

視覚支援・聴覚支援

漢字のアプリ

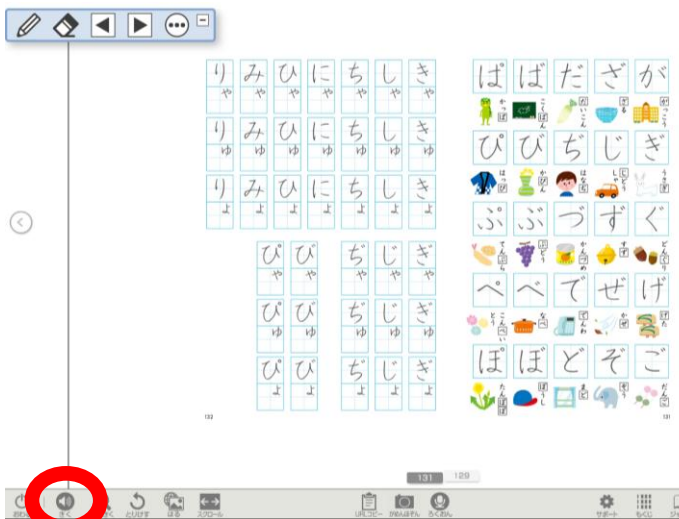


タブレットの使用



- 目的を明確にする
- ルールを示す
「やめましょう」と言われたらやめる
- 支援方法を職員で共有し徹底

デジタル教科書



まとめ

成果

子供たちのペースに合わせた反復練習の時間を設定したことで、活動への自信が見られるようになった。また、教科学習を取り入れたり活動を細分化したりしたことで、集中して取り組めた。



授業に集中!!



交流学級で発表



学習発表会で発表

課題

子供の発達段階に応じ、支援方法を柔軟に改善し続ける必要がある。持続可能な体制をつくるために、職員間の連携をさらに深めたい。